

准教授 水内 智英

教育上の能力に関する事項	年 月 日	概 要
◎教育方法の実践例 [デザイン理論]	2016. 4～2017. 3	授業の最後にその時間の内容と関連するテーマでミニレポートを書く時間を作り、書きながら考える体験を積み重ねられるようにした。また、授業最初には前回のミニレポートの中から数点を紹介しながら、関連する視点や事柄についてさらに解説を加えることを繰り返し行い、受講生の理解度向上をはかった。
[デザイン実技1、立体造形]	〃	毎回、全員と面談をし、課題の進捗状況や次回までの具体的なアドバイスを行った。また、過去の参考作品を効果的に使いながら、学生の理解向上をはかった。加えて、前後期にそれぞれ一回ずつ、グループワークでのワンデーワークショップの機会を設け、それぞれの回で新たなデザインの側面や方法を体験的に学ぶことのできる機会を設けた。
[デザイン実技Ⅲ-1 (LS)]	〃	特定のフィールドを設定して、丹念にフィールドワークを繰り返すことによって環境の特性を読み解き、より本質的な視点を得るための方法を体験させた。また、フィールドワークを通じて見いだした視点を他者に伝わる表現として編集することを求め、またそこから更にグループワークを経て具体的なデザイン提案へと展開するという一連のプロセスを踏めるような授業構成とした。また、授業の前半と課題講評時に人類学を専門とする講師を招き、人類学的フィールドワークの視点も授業に取り込んだ。
[デザイン実技Ⅱ-3 (LS)]	〃	モノをとりまく諸相についてより分析的に捉えられるよう指導が行えるよう、2つの関連した課題によって授業内容構成した。課題「If」では、普段見慣れたモノに、ある「仮定」を設定した上でどのようにその形態を変化させることができるのか発想し、条件と形態との関連について意識的に考える機会をつくった。課題「可能性発見からのデザイン」では、モノの「可能性：意図されていない使われ方」に目を向け、モノと使用者との関係について意識的に考える機会をつくった。
[デザイン実技Ⅳ (LS)]	〃	授業各回毎に小テーマを設け、そのテーマに応じた事例や考え方、社会的背景を解説し、併せて、それぞれの個別テーマについて面談方法で個別指導にあたった。とりわけ、同時代的なテーマに関心をもちやすいよう、インターネットに接続されたモニタを用意し、講義を進めながら、学生への質問へ答える形を取りながら、インターネット上の資料を示す工夫を行った。
◎作成した教科書・教材 [デザイン理論]	〃	難解な理論もできるだけ身近に感じられるよう、画像を多く使ったスライドを毎回用意し、新たに映像資料も講義に加えた。興味を持った理論を学生自身が引き続き探求できるよう、授業で扱ったテーマごとの参考書籍リストを作成した。

[デザイン実技Ⅲ-1 (LS)]	〃	デザインリサーチのためのフィールドワーク手順を簡潔にまとめた資料や、プレスト、シャッフル・ディスカッション、KJ法、ペルソナ手法、シナリオ手法などコンセプト立案のための手法をまとめた教材を用意した。また、課題書は授業の前後半のそれぞれの段階で学生が理解しやすいよう2つに分けて用意した。また、各課題で、作品アイデアを整理するためのワークシートを作成した。
◎当該教員の教育上の能力に関する大学の評価	〃	2016年度 [卒業制作 (LS)] に対する学生による授業評価アンケートにおいて、他授業の平均値と比べ、授業の理解度が非常に高く評価されたことは、個別の課題指導に多くの時間を設定し、丁寧な教育指導が行われていることによるものだと考えられる。

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
◎著書 『日本地域デザイン史Ⅱ』	共著	2016. 12	芸術工学会地域デザイン史特設委員会編、美学出版	地域デザイン史について編纂された書籍の内、名古屋の食文化とその背後にある歴史的・産業的土壌について執筆した。pp115「名古屋めしの文化土壌」 共著者：黒田宏治、岡村穰、水内智英、他多数
『ヴィジュアルリテラシースタディーズ』	共著	2017. 3	中部日本教育文化会	ヴィジュアルリテラシーとその教育について、理論的・実践的に解説した書籍のうち、現代のデザイン状況とヴィジュアルリテラシーとの関係を論考した「誰もがデザイナー」である現代における、新たなデザイン力としてのヴィジュアルリテラシー」pp. 49-56、自らが開発した教育実践ツールへの解説「観察と気づきのための『Visual Literacy method card』」pp. 98-105に加え、ヴィジュアルリテラシーの理解のための書籍紹介2冊について解説pp. 142-143、pp. 146-147を担当した。共著者：茂登山清文、遠藤潤一、定國伸吾、鈴木宣也、水内智英、他
◎その他 [書籍装丁・プロジェクトブランディング] [高知県佐川町流ソーシャルデザイン [みんなでつくる総合計画]]  [デザインプロジェクト企画・実施] Cultural Guest House Project		2016. 4  2016. 6 ~ 2017. 3	高知県佐川町、NPO法人 issue+design、学芸出版社  名古屋芸術大学、ブライトン大学	NPO法人issue+designと高知県佐川町とが住民主体で作り上げた総合計画を、町内外にそのプロセスと共に分かりやすく伝えるために書籍化した。アートディレクションを担当。また、一連のこの活動に関わるブランディングを行った。グッドデザイン賞2016 受賞。  名古屋芸術大学とイギリスブライトン大学との姉妹校提携20周年記念事業としてブライトン大学の教授陣と共同研究を行なった。東海地域のマテリアルをリサーチし、それらを利用することで、地域の魅力を伝えるゲストハウスを制作した。駒井貞治との共同実施プロジェクト。

<p>[アートディレクション] 高知県佐川町「発明ラボ」 ロゴ・ヴィジュアルデザイン</p>	<p>2016. 7</p>	<p>高知県佐川町、NPO法人 issue+design</p>	<p>NPO法人 issue+designと高知県佐川町が実施した地域産業活性化プログラム「発明ラボ」のヴィジュアルコミュニケーションツールのアートディレクションを行った。</p>
<p>[デザインプロジェクト企画・実施] 触五山茶ブラッシュアップ 事業</p>	<p>2016. 9 ~ 2017. 3</p>	<p>岐阜県可児郡御嵩町、名古屋芸術大学</p>	<p>受託研究事業として御嵩町で栽培・販売される「触五山茶」を使った地域活性と魅力促進のため、中学校でのワークショップ、イベント、パッケージデザイン、PR用パンフレット作成等の一連の活動を行なった。</p>
<p>[研究発表] 日本における初年度共通デザイン基礎教育の実態調査・検証——デザインファンデーションプログラムの可能性と課題からその将来を展望する</p>	<p>2016. 7</p>	<p>日本デザイン学会第63回春期研究発表大会/長野大学、日本デザイン学会研究発表大会概要集 pp.228-229</p>	<p>日本における初年度共通デザイン基礎教育の実態をインタビュー調査等を通じて纏め、またそれらを検証し、今後のデザイン基礎教育のあり方について論じた。萩原周との共同発表。</p>
<p>[研究発表] Visual literacy as a designing ability in an age when everyone is a designer.</p>	<p>2016. 10</p>	<p>The Annual Conference of the International Visual Literacy Association / Concordia University, Canada</p>	<p>International Visual Literacy Association (国際学会)において、誰もがデザイナーとなった時代における、ヴィジュアルリテラシー教育の意義とその実践について口頭発表を行った。</p>
<p>[研究発表] Creating a visual literacy method tool foracquiring a designing ability in an agewhen everyone is a designer.</p>	<p>2016. 10</p>	<p>ヴィジュアルリテラシー国際シンポジウム「都市とヴィジュアルリテラシー」/名古屋大学情報科学研究科</p>	<p>ヴィジュアルリテラシー教育のために開発したツール「観察と気づきのための Visual literacy method card」の開発について口頭発表を行った。</p>
<p>[作品展示・ワークショップ] 観察と気づきのための「Visual Literacy method card」</p>	<p>2016. 10</p>	<p>「ビジュアルリテラシーの実践ツール」/名古屋大学プロジェクトギャラリー「clas」</p>	<p>ヴィジュアルリテラシー教育に利用する、メソッドカードを制作し展示を行った。また併せて会場ではワークショップを実施した。</p>
<p>[作品展示] 「デザインの理念と形成：デザイン学の50年」</p>	<p>2016. 10</p>	<p>東京ミッドタウン・デザインハブ/武蔵野美術大学基礎デザイン学科研究室</p>	<p>武蔵野美術大学基礎デザイン学科設立50周年を記念して行われた展覧会においてこれまでの活動をまとめた作品展示を行なった。</p>
<p>[講演] 「デザインと哲学の邂逅」</p>	<p>2016. 10</p>	<p>東京大学大学院総合文化研究科・教養学部附属「共生のための国際哲学研究センター」</p>	<p>デザインと哲学の接点について、講演とトークセッションを行なった。</p>
<p>[講演会モデレーション] フードデザイン   デザインの視点で読み解く「食」文化 ユネスコ創造都市ネットワークフォーラム Food×Design</p>	<p>2016. 10</p>	<p>ユネスコ・デザイン都市なごや推進事業実行委員会/名古屋市公館</p>	<p>ルウエーのクリエイターズユニットfoodstudioのルナ・クロック氏、アル・ケッチャーノ オーナーシェフ奥田政行氏を交えて食・デザイン・生活文化の接点について語るトークセッションのモデレータを務めた。</p>

<p>[作品展示] Cultural Guest House project 地域の魅力を伝えるメディア アとしてのゲストハウス</p>	<p>2016. 12</p>	<p>Dialogue between Brighton and Nagoya/ 名古屋芸術大学アート&amp;デ ザインセンター</p>	<p>名古屋芸術大学とイギリスブライトン大学との姉妹校提携20周年記念事業として行われた 展覧会で、ブライトン大学の教授陣との共同 研究の成果を発表した。駒井貞治との共同展 示。</p>
<p>[講演] 「北名古屋未来若者会議」</p>	<p>2017. 3</p>	<p>北名古屋市役所</p>	<p>北名古屋市における、若者の市政への参加の 可能性や、創造性を活かしたまちづくりにつ いて講演を行った。</p>
<p>[講演] 「人との関係・仕事・まち をデザインする」</p>	<p>2017. 3</p>	<p>犬山市役所</p>	<p>犬山市新規採用予定者研修の一環として、デ ザイン力とは何か、なぜ行政にデザインが必 要とされているのかレクチャーを行った。</p>